

テーマ：貿易統計（2018年1月）

発表日：2018年2月19日（月）

～実質輸出は増加基調で推移するが春節の影響も～

 第一生命経済研究所 経済調査部
 担当 エコノミスト 齋藤 麻菜
 TEL：03-5221-4573

		貿易収支(億円)				輸出数量				輸入数量			
		原数値		輸出金額		輸入金額		アメリカ		EU		アジア	
				前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	前年比	
17年	2月	8,111	6,028	11.3	1.3	8.3	2.2	4.9	16.0	▲4.3	2.6	1.5	▲8.2
	3月	6,103	1,564	12.0	15.9	6.6	4.5	▲0.0	7.6	4.2	14.3	4.5	6.0
	4月	4,792	993	7.5	15.2	4.2	2.8	2.7	6.8	4.9	7.7	3.0	5.7
	5月	▲2,064	1,694	14.9	17.9	7.5	8.0	16.7	6.6	5.4	5.5	3.0	8.7
	6月	4,414	962	9.7	15.5	4.0	5.2	4.6	3.6	4.2	13.6	7.8	3.4
	7月	4,220	3,081	13.4	16.3	2.6	3.0	▲1.0	1.9	3.2	5.5	4.6	6.6
	8月	1,095	3,638	18.1	15.3	10.4	18.1	2.9	9.4	2.4	1.1	3.6	3.5
	9月	6,640	2,541	14.1	12.1	4.8	6.2	▲1.8	8.9	▲0.2	14.0	4.5	▲1.0
	10月	2,807	3,622	14.0	19.0	3.8	1.6	0.6	7.8	3.2	0.0	11.0	4.7
	11月	1,071	3,359	16.2	17.3	5.5	4.8	▲1.8	9.1	2.6	14.3	▲1.8	6.6
	12月	3,587	907	9.3	14.9	4.5	2.9	1.5	2.5	5.9	5.5	3.3	9.6
18年	1月	▲9,434	3,733	12.2	7.9	9.2	4.2	9.6	9.7	2.6	9.4	9.0	0.3

(出所)財務省「貿易統計」

○輸出数量が増加

1月の貿易統計が財務省より発表され、貿易収支は9,434億円の赤字（コンセンサス：▲10,213億円、レンジ：▲11,990～▲8,650億円）と、コンセンサスを小幅上回る結果となった。8ヶ月ぶりの赤字となったが、1月は日本の正月の影響で赤字になる傾向があるため懸念は不要だ。

輸出金額は、前年比+12.2%（コンセンサス：+10.5%、レンジ：▲2.0%～+15.4%）と増加した。ドル円が同+3.4%と円高になるなど価格面からの押し上げが無くなる中、数量が同+9.2%と増加したことが金額の増加に繋がっている。輸入金額は、同+7.9%（コンセンサス：+8.1%、レンジ：▲2.4%～+12.1%）と、伸びこそ鈍化したが増加基調が続いた。輸入金額については、原油価格の上昇を背景に価格面での伸びが押し上げに働いた。

季節調整値では、輸出金額が前月比▲1.1%、輸入金額が同▲5.2%となった。輸入金額の減少が大きかったことで、貿易収支は3,733億円の黒字と前月から黒字幅が大きく拡大する結果となっている。

○実質輸出は前月比+2.2%

為替などの価格変動の影響を除いた実質輸出は、前月比+2.2%（1月：同▲0.5%、実質化・季節調整は第一生命経済研究所試算）とプラスに転じ、高い伸びとなった。例年1、2月については春節の影響で数字がかく乱され、今年の春節は1月の輸出押し上げに寄与したとみられる。後述の通り1月の輸出増の牽引役が中国であることを考えると、2月の結果と併せてみる必要はあるだろう。もっとも、世界経済の拡大基調が続いていることから輸出は好調さを保っているとみている。

実質輸出を国別にみると、アジア向けの増加が全体を押し上げている。アジア向けについては、一般機械や輸送用機器を筆頭に機械類の増加が顕著だ。電子機器についても、前月のレポートでは新型スマホ発売の

影響が剥落することによる水準調整が一旦続くことを想定していたが、1月は同+3.2%（12月：同▲2.8%）と増加した。春節の影響が出やすいこともあり、今後伸びが鈍化する可能性はあるが、スマホ以外にも電子部品需要が広がっており、引き続き電子機器輸出の増加基調は続くだろう。また、EU向けについては、輸送用機器の増加を主因に同+8.2%と大きく上昇した。輸送用機器については振れも大きく、一時的な押し上げとみているが、その他にも多くの財でプラスとなっており、振れを除いても高水準で推移したといえよう。一方で、米国向けについては、機械類が2ヶ月連続でマイナスとなったことで、減少が続いている。特に、輸送用機器は同▲4.6%（12月：同▲6.6%）と減少し、押し下げ寄与が大きい。もっとも、1月の米国自動車販売が好調な水準にあること、中でも日本車の販売が大きく持ち直していることから、輸出についても今後は復調していくと考えられる。

○輸出の増加基調は続く見込み

以上のように、1月の実質輸出は、アジア向け輸出を牽引役にプラスに転じ、高い伸びとなった。ただし、アジア向けについては、春節の影響による押し上げがあったとみられる。2月は輸出は弱めに出ることが想定され、判断は2月と均してみる必要があるだろう。

先行きについて海外経済をみると、米国経済は引き続き雇用環境の良好さや減税政策によって個人消費が押し上げられ、景気の拡大が続くとみられる。欧州経済についても、個人消費など内需主導の堅調な景気回復が続く見込みだ。アジア経済についても、中国は足元で好調さを維持しており、欧米など世界経済の拡大を受けて底堅い推移を続けるだろう。世界経済は総じて好調さを維持し、それに伴って輸出の増加基調は続く見込みだ。

